

料金後納
郵便

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当第1四半期の半導体市場は、引き続きスマートフォンやタブレット端末向け需要が市場を牽引しました。例年の季節的要因による調整はありましたが、ハイエンドスマートフォン新機種向けの需要が好調である等、市場は全般的に堅調に推移しました。

一方、FPD市場は、中小型液晶パネルはスマートフォン向けの需要拡大により生産が活発化する一方で価格は下落傾向にありました。また大型液晶パネルは生産調整が継続されましたが、低水準ながら底堅く推移しました。

このような状況の下、当社グループは、“強靱な企業体質を基盤に、新たな成長に挑んでいく企業”になるため、当期を初年度とし2017年度を最終年度とする新中期経営計画『Challenge17』をスタートさせました。

株主の皆様におかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 長谷川 正義

平成27年3月

Business Report 2015

平成27年9月期 第1四半期業績のご報告 (平成26年10月1日～平成26年12月31日)
本Business Reportは2014年9月末時点の株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)

まずこちらを

開く 濡れている場合は乾かしてから
はがしてください



財務ハイライト (平成26年10月1日～平成26年12月31日)

売上高 (百万円)



営業損益 (百万円)



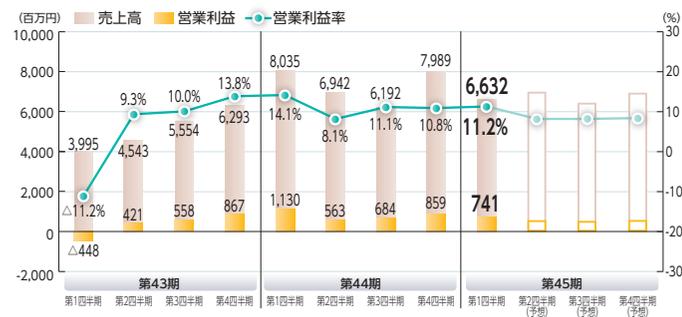
経常損益 (百万円)



四半期(当期)純損益 (百万円)



四半期業績推移と予想



株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月末日
定時株主総会	毎年12月に開催
期末配当金受領株主確定日	9月末日
定時株主総会の基準日	9月末日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-232-711 (フリーダイヤル)
単 元 株 式 数	100株

皆様からのご意見・ご質問への回答 (当社ウェブサイト内「二次電池FAQ」より抜粋)

- Q 量産開始と製品化の時期は決まっていますか?**
A battenice®の製品化、量産化は現時点では未定です。なお、試作開発ラインの構築は2014年5月頃より始めております。
- Q 試作開発ラインとはどんなもので、いつ完成するのですか?**
A 試作開発ラインとは、実験室レベルで製作していたシート状のbattenice®を、量産製造するための試作ラインで、2014年5月に構築を開始いたしました。2015年春に完成予定で、その後、試作(テスト生産)を経て、設備の改良や製造ノウハウの蓄積を行っていきたくと考えております。
- Q 試作開発ラインが完成すると量産できるのですか?**
A 試作開発ラインで得た製造ノウハウをもとに、装置構成を最適化した量産試行ラインを構築する予定です。そこでさらに効率性、安定性、コスト面等を向上させた上で、量産試行ラインを複数並列化し、本格量産に移行したいと考えております。なお、製品化には、この他にも課題があります。
- Q battenice®の製品化への課題は何ですか?**
A 量産化技術の確立(試作開発ラインでの検証等)をすること、実装技術の開発、目標性能に向けた要素開発、設備開発等が挙げられます。また、試作(テスト生産)開始後に新たな課題が生じる可能性もあります。

年間予定表

※都合により、予告なく日程が変更となる場合がございます。

出展イベント関連	決算・株式関連
nano tech 2015	1月
	2月
BITS EXPO 2015 (米国) (Burn-in & Test Strategies Workshop)	3月
	4月
	5月
	6月
	7月
	8月
	9月
	10月
	11月
SEMICON Japan 2015 (予定)	12月

郵
便
は
が
き



株主総会の様子①



株主総会の様子②



イベント出展の様子

営業の概況 (平成26年10月1日～平成26年12月31日)

○プローブカード事業

プローブカードは、主にスマートフォンやタブレット端末向けモバイルDRAM用MEMS型アドバンスプローブカードの需要が好調で高水準な受注・売上の計上となりました。利益面におきましては、生産性向上や原価低減等、収益構造改善の取組みの他、円安等の外部環境も追い風となり、営業利益率を押し上げました。

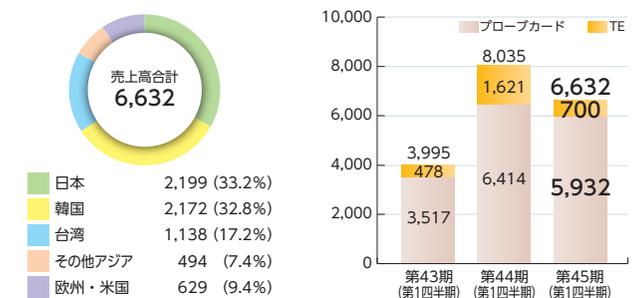
この結果、売上高は5,932百万円(前年同期比7.5%減)、セグメント利益は1,360百万円(前年同期比3.7%減)となりました。

○TE事業

2015年9月期より、「装置事業」から「TE事業」に名称を変更しております。LCD検査装置は、顧客であるパネルメーカーの都合により装置の立ち上げが遅れたこと等もあり、低水準な売上となりました。一方、半導体検査装置及びプローブユニットは比較的堅調でした。

この結果、売上高は700百万円(前年同期比56.8%減)、セグメント損失は57百万円(前年同期は175百万円のセグメント利益)となりました。

○地域別売上高構成比(百万円) ○セグメント別売上高(百万円)



通期業績予想

○売上高	27,000 百万円	○経常利益	2,200 百万円
○当期純利益	1,800 百万円	○1株当たり当期純利益	92.15 円